

## 1 めざす学校像

人(生徒)は皆、星であり、生徒一人ひとりの個性を大切に、かけがえのない存在としてその可能性を伸ばし、鍛えていく。生きる力を養う教育、個性を大切に教育、共生教育。

- ・常に教務の研鑽に努め、生徒一人ひとりの学力向上を図る。
- ・生徒の個性と人権を尊重し、全人的な教育を実践する。
- ・学園内の整備と美化に努め、より充実した教育環境を提供する。
- ・進学・就職など、卒業後の生徒の進路を全力でバックアップする。
- ・保護者の方々の意見を尊重し、学園運営に反映させる。

## 2 学校教育自己診断における結果と分析[ 令和元年11月 実施分 ]

実施対象は全学年生徒、保護者とした。回答は無記名、質問はアンケートと自由記述で実施した。保護者の回答率は97%、生徒の回答率は99%と高かった。保護者については、肯定的と捉えることができるAとBの和がほとんどの項目で7割以上に達しており、8割・9割以上の回答も増えてきている。また、生徒の回答についても肯定的回答がほとんどである。しかしながら、保護者に比べると満足度は決して高いとは言えない。生徒からの意見を精査し、更なる向上に努めなければならない。

回答率(回答数/在籍数)

生徒 1年:99%(341/342) 2年:97%(309/314) 3年:99%(388/390) 合計:99%(1038/1046)

保護者 1年:97%(331/342) 2年:97%(305/314) 3年:98%(383/390) 合計:97%(1019/1046)

### ※学校関係者評価委員会からの意見

#### 【 令和元年7月26日(金) 】

- ・防犯への取り組みをどうしていくかが課題である。防犯は地域の人々との連携が重要であり、意識を高めることが必要だと考えています。
- ・学習指導要領改訂に際し、どのような授業改善をするのが求められていると思います。
- ・子どもを取りまく環境が、親の世代が考えるより大きく変化している。子供たちが多くの情報を手に入れることができるときに、どのようにして正しい情報を手に入れさせることができるのか。自分の身を守るためにどうすべきか。学校での指導が必要だと考えています。
- ・学校、保護者、地域の連携をしっかりとすることは私学でも大切なことだと思います。地域のボランティアなどに学校として参加することで地域からの評価も上がる。こういう学校が先生と生徒との関係性がうまくいっていると感じられます。
- ・携帯電話によって、子供たちの関係性などもおもしろい崩れたりする。SNSなどを使用して、危険性が増幅しているように感じます。
- ・高校生も自己肯定感を高めることや、進学率[就職含む]100%を目指す取り組みは大切だと考えます。
- ・中学校や小学校において遅刻・校則違反に関してかなり甘くなっている。先生をなめきっている状態。帽子をかぶる意味を教員が説明できない。帽子は身を守る道具ということを説明していない。「被れ」というだけの押し付けではなく、きちんと説明した学校ではほとんどの生徒が帽子を着用している。
- ・約束事を守ることを指導していくことの大切さを教えていかなければならないと感じます。小さい約束から大きい約束になり、それが規範意識につながっていくと考えています。
- ・なかなか先生のいうことを聞かない生徒もいるようです。それで先生がつぶれてしまう。
- ・規範意識を高めるために小・中学校で始めたことは、警察の方に来ていただき話をしてもらったこと。その結果、生野区内では青少年の犯罪は減っているそうです。昔はたむろしているなどがあったが、今はほとんどなくなっているように感じています。
- ・小中学校に入学するタイミングでの引っ越しが多い。
- ・大阪市の教育レベルが下がっている。生野区は大阪全体の平均よりも低い。奈良・兵庫などは上がっている。学校のレベルが高い地域に人が集まっている。実際、天王寺区のほうには子供が流れているようです。引っ越し理由もつながっている。
- ・生野区では「生きる力 学びサポート治療」として、生野区内の企業の方で、ロールモデルとなる方が小中学校を対象に子供たちに指導してくれています。「赤ちゃん先生」では、昨今は一人っ子が多く、接し方の勉強などの取り組みもしています。このような事業の講師の派遣を学校と連携して考えています。
- ・地域の子供をどのように育てていくかは重要な問題だと考えています。
- ・特別支援については、支援学校などと連携をとることで、ノウハウなどを知ることができるのではないかと。小学校の先生も通ってノウハウを学んでいるようです。

#### 【 令和元年11月29日(金) 】

- ・中学校で遅刻を取り締まりすぎると、生徒は帰宅してしまう。これが不登校の引き金になったりすると聞いています。
- ・「スマホ・ケータイ安全教室」を実施されていることに関連して、中学校では進級すればするほどスマホの使用時間が多いそうです。中学3年生の女子生徒が一番多く、学力との関連性も高い。使用時間が長いと学力低下につながっているようです。使用時間を短くすることは自制心を培うことにもつながると思います。
- ・大阪市の中学校でも携帯電話を持ち込み可にする可能性があるかと聞いています。携帯電話でのトラブルが低年齢化していくことを危惧しています。実際に小学校2年生でSNSのトラブルも起こっているそうです。また、対面のコミュニケーション能力も低下している。
- ・生野区内の少年非行の件数が減少している。ある意味では、スマホなどの普及で視覚化できなくなっている部分もあるのではないかと感じています。
- ・「スマホ・ケータイ安全教室」でスマホの怖さを訴える寸劇なども利用してはどうか。体験を通して、携帯電話による問題意識を高めることができるのではないのでしょうか。継続すべきイベントだと思います。
- ・スマホに関しては、入学式に親への指導を入れるのが良いのではないのでしょうか。スマホの問題を提起することや、業者を呼びワークショップなどを行うと効果的だと考えます。親が子供に使用できない環境を作ることも必要ではないかと。例えば、22時にWi-Fiを切ってしまうとか。
- ・生徒たちにスマホやドラッグのことを理解させるには講義形式も必要だが、ワークショップが一番良いと思います。生徒たちが実感しやすい。また自分たちで調べ学習をさせて、半日ないし一日用いて、それを発表させる場を設ける日を作る。体で覚えていくシステムが必要だと考えます。
- ・中退防止に関する取り組みが課題とされています。
- ・高校1年の夏や高校2年生に上がる直前に辞めていく生徒が多く、就学意欲がない生徒、あとは周りの友人を見て辞めることもある。保護者が生徒と接することに疲れ、生徒の意向通りの道を選ばせようとするケースもあります。
- ・「火災訓練」とありますが「防災訓練」としたほうが良いと思います。

#### 【 令和2年3月6日(金) 】中止

### 3 本年度の取組内容及び自己評価

	本年度の重点目標	具体的な取組み内容	評価指標	取組内容の自己評価
取組①	学力の充実と進路希望の実現	<p>①担当者同士の連携を密にすることにより、生徒達の理解度や進捗状況を丁寧を確認し、「わかりやすい授業」をする。また、定期考査や模試の数値を教科として把握していき、授業内容と生徒たちの達成度を確認する。</p> <p>②生徒の進路実現のため、個々に応じた対策講座やガイダンスを実施していく。また、習熟度別の放課後講習、夏期講習を実施し、柔軟に対応していく。</p>	<p>①学校教育自己診断による、「授業はわかりやすい」の項目での肯定的回答70%以上</p> <p>②令和2年度入試において、関関同立は15名以上、産近甲龍は50名以上、摂神追桃は70名以上の合格者</p>	<p>①担当者同士の連絡を密にしていくことや、定期考査の結果については教科として把握できているが、模試の数値を把握するまでにはいたっていない。学校教育自己診断による、「授業はわかりやすい」の項目での肯定的回答は63%だった。1年生が59%、2年生が61%、3年生が67%であった。次年度については、担当者だけではなく、教科として生徒達の理解度や進捗状況を確認していき、丁寧な指導をしていく必要がある。また模試の数値も把握していき、実力向上に尽力していく必要がある。</p> <p>②関関同立が15名、産近甲龍が42名、摂神追桃が90名であった。関関同立、摂神追桃の目標は到達できたが、産近甲龍は未達であった。次年度からは、指定校に頼らず、公募・一般に促す指導をもとより、何よりもまず講習の在り方を吟味し、生徒の学力伸長を図る必要がある。</p>
取組②	生徒指導の充実	<p>①頭髪違反率を低くすることを、各クラスが意識していくようにする。</p> <p>②8時30分に自教室で着席しておくことを、習慣化していく。</p> <p>③毎日の学校生活の中で、生徒の規範意識が高まるよう、全教員が細かな点まで確認していく。</p> <p>④交通ルールやマナー、モラルに対する意識づけを日頃からしていく。</p> <p>全教員によるきめ細かい積極的生活指導・マナー(モラル)指導を推進し、生徒の規範意識を向上させ、問題行動の未然防止に努める。特に、「時間を守る」「ものを大切に使う」「他者を尊重する」に重点的に取り組む。</p>	<p>①毎月の頭髪違反率15%未満</p> <p>②毎月のSHR遅刻率1%未満</p> <p>③懲戒処分者数を昨年度より減らす</p> <p>④外部からの苦情を0に近づける</p>	<p>①違反率7.0%</p> <p>②SHR遅刻率0.5%</p> <p>③懲戒処分者数のべ93名(昨年度63名)</p> <p>④外部からの苦情14件(昨年度34件)</p> <p>懲戒処分者数が昨年度より30名増加した。日頃から担任、学年を中心に様々な角度から規範意識を高めるようにしていくことが必要である。外部からの苦情は昨年度より減少はしているものの、次年度についても交通ルールや電車内のマナーについて具体的に指導していかなければならない。</p>
取組③	学校組織運営の活性化	<p>①奨学金その他への対象生徒、保護者へのわかりやすい説明の徹底と丁寧な対応を行う。</p> <p>②エリア別受験結果を分析し、徹底したエリアマーケティングをしていく。また、訪問件数重視型から、より効果的な訪問重視型に変え、減少した地域、競合校の分析を行っていく。</p> <p>③昨年度減少したコースと競合する学校を分析し、訪問活動で本校の強みをアピールしていく。また、新設の文理進学コースの魅力をもっとPRし、より学力の高い層の受験者増につなげていく。</p>	<p>①学校教育自己診断による「学校は、奨学金制度についての情報を知らせてくれる」の項目において、肯定的回答が85%であった(昨年度76%)。保護者及び担任と連携し、スムーズに手続きを進めることができたが、書類不備により決定に遅れが生じた。次年度からは、書類作成に関する情報発信量を増やし、書類不備件数を減らしていきたい。</p> <p>②専願受験者で300名以上を確保する</p> <p>③特進コース・文理進学コースについては募集定員の確保</p> <p>○募集定員          特進コース(50名)          文理進学コース(90名)          進路探究コース(120名)          スポーツコース(80名)</p>	<p>①学校教育自己診断による「学校は、奨学金制度についての情報を知らせてくれる」の項目において、肯定的回答が85%であった(昨年度76%)。保護者及び担任と連携し、スムーズに手続きを進めることができたが、書類不備により決定に遅れが生じた。次年度からは、書類作成に関する情報発信量を増やし、書類不備件数を減らしていきたい。</p> <p>②専願受験者は314名となり、目標数値の300名は達成できた。しかし、併願受験者が97名減少した。次年度は、公立高校を検討している中学生にも本校の魅力をアピールしていくことが必要である。</p> <p>③特進コース38名、文理進学コース50名となり、未達であった。進路探究コースについては、161名の入学者。スポーツコースについては128名と募集定員を満たすことができた。次年度については、特進コース、文理進学コースの募集定員充足に向けて、広報活動を更に強化していく必要がある。</p>